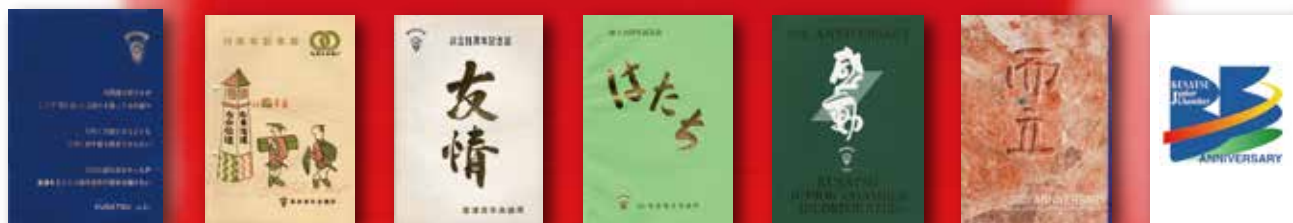


50周年 ビジョン

SO-AIプロジェクト ～ひとがまちをつくり、まちがひとを育てる～



はじめに

1966年創立以来、公益社団法人草津青年会議所は、「奉仕」「修練」「友情」の三信条を根幹とし、熱い想いと覚悟を持って「明るい豊かなまちづくり」を目指して真摯に取り組んで参りました。これまでの歩みの中で先輩諸兄は、まちづくりやひとづくりを通して様々な運動を展開され、今日まで歴史を積み重ねて来られました。その覚悟ある行動の積み重ねは、地域や行政、各種団体との信頼を生み、今、つながりの中で我々は存在し活動しております。



40周年ビジョン
湖動力～いま、この想いが未来を動かす！～



45周年ビジョン
つなぐ～ひとのやさしさをまちに～

失われた20年の間、経済活動が都市部へ集中するとともに地域経済は停滞し、若年層の所得が伸び悩み、先の見えない不安から結婚したくてもできない、子供が欲しくても持てない若者が増え、少子高齢化は年々拍車をかけて急激に進んでいます。また、経済・社会・生活のあらゆる場面で情報化が進展しその恩恵を享受する一方で、無責任な情報社会は人の心の在り方さえも変化させています。そして、社会構造の変化により家庭、地域で世代間交流の場は正常に機能せず、若者が活躍できる機会が減少し、地域コミュニティを衰退させる大きな要因になっています。また、地域自治では、世代間のパワーバランスが崩れ偏ったまちづくりが進められていると感じます。人と人とのつながりは薄れ、無関心かつ利己的な考えが蔓延し、行き過ぎた個人主義を生み出し、道徳心や利他の精神を養う環境はますます悪化の一途をたどっています。

少子高齢化や社会の情報化が引き起こす問題は、複雑な要因が折り重なる大きな困難ではありますが、地域全体で子育てや暮らしに対する不安要素を解消する為の方法を考え、地域全体で協力しながら子供を守り育てることが理想であります。また、損得ではなく心の在り方や善悪を深く考え、現実と向き合える力を養えば、仮想化された価値観に偏らない「個」の確立に繋がるのではないのでしょうか。私たちは、人と人との関わり合いの中で生かし、生かされています。「個」が自覚と責任をもって自分や家族が住み暮らす地域の問題を考えるとともに、他人を思いやる精神を持ち「公」の目線からだれもが暮らしやすい地域を創る意識が高まれば、多世代間で手を取りあいながら市民と行政が連携する理想的な地方自治が行われ、人と人が助け合い困難を解決へと導ける夢と希望に富んだ魅力溢れる素晴らしい地域へと生まれ変わるのです。理想を現実へと導く為には、崇高な思想と行動力、影響力を持ち、地域を牽引する強いリーダーの存在が必要なのです。

50周年シンボルマーク

シンボルマーク50の「0」は情熱を燃やしてメンバーが行動する思いを込めて炎を表し、2016年度のLOMスローガンである「燃やせ情熱を、ここに集う仲間とともに!」を表現しております。
このシンボルマークをメンバーが常に見て頂く事で50周年事業に対して情熱を燃やして行動して行く事を意識付け致します。また、マークの「5」「0」は円(縁)をベースに作成し、お互いをくっつけることで、メンバー同士の絆や、地域の方々とのつながりを表現しております。

50周年式典趣旨

1966年(昭和41年)5月14日、我がまちを愛する46名の若者たちが相集い、草津の地に草津青年会議所は創設されました。
創設以来、公益社団法人草津青年会議所は、「奉仕」「修練」「友情」の三信条を根幹とし、熱い想いと覚悟を持って「明るい豊かなまちづくり」を目指して真摯に取り組んで参りました。
輝かしい創立50周年を迎えた今、SO-AIプロジェクト～ひとがまちをつくり、まちがひとを育てる～をビジョンに掲げ、我々は、ここに集う仲間とともに情熱を燃やし、新たな一歩を踏み出して参ります。



わがまち草津は、琵琶湖をはじめとする豊かな自然と、重要な歴史、伝統、文化を有し、多くの魅力に溢れています。古くは、東海道と中山道が分岐・合流する宿場町として栄え、現在も京阪神をはじめとする交通の要衝地であることから、ベッドタウンとして発展し、子育て世代といった若い世代を中心に人口増加が続いています。近年では近畿圏内で3年連続「住よさランキング1位」になるまでの地域に発展し、全国的にも注目を集めています。草津市は更に住み良いまちを目指すために、まちづくり協議会による地域活動、NPOやボランティア団体による市民公益活動が盛んに行われるようになり、市民の「地域を自分たちで良くしていきたい」という意識も高まり、市民による協働のまちづくりを積極的に行っています。

一方で、急激な流入人口の増加により、「新住民」、「旧住民」といった言葉に表されるように、地域住民のまちづくりに対する意識と地域社会との関わり方の違いから、地域コミュニティの希薄化が問題視されています。また、全国的に進む人口減少の影響を受け、現状のままでは近い将来人口は減少すると言われ、他人事では済まされない多くの問題を抱えています。だからこそ我々は、今一度地域を見直し、地域に必要とされていることを考え行動に移し、魅力溢れるまちづくりを進めていかなければなりません。

地域の発展の礎は「ひとがまちをつくり、まちがひとを育てる」とあるように、地域に暮らす「人の心」のあり方であると考えます。市民一人ひとりが未来に夢と希望を抱きこの草津で暮らす為には、これまでの発展を遂げた地域への感謝と愛郷心を持って、地域を創りあげていくことが重要です。我々は、先輩諸兄が築いてこられた歴史や理念を受け継ぎながらも、新しい時代を見据え地域に根付き市民を巻き込みながら、運動を起こしていかなければなりません。そして、次世代を担う若者が活躍できる環境を創造し、地域の人びとの意識を変革させるとともに愛郷心を育むことが大切です。さらに、同志の輪を拡げ組織を活性化させ、地域に運動を伝播する為に、メンバー一人ひとりが、危機感と拡大意識を持ち、一人でも多くの同志を増やすとともに、強いリーダーを地域に輩出し続けることが必要です。このような我々の活動・運動の展開は、魅力溢れるまちへと導くことになるでしょう。

創立50周年を迎えた今、魅力溢れる草津を次世代に繋ぐために、ここに集う仲間とともに情熱を燃やし、新たな一歩を踏み出しましょう。



【50周年ビジョン】

プロジェクト

ひとがまちをつくり、 まちがひとを育てる

地域をより良き方向に導くためには、市民一人ひとりの意識変革と、未来を切り拓く力が必要です。一人のまちへの共感、地域に暮らす人びとを巻き込みながら、さらなる共感の輪を広め、多様な価値観が共存する環境を生み出します。また、地域の役割とあり方を追求し、地域の可能性を最大限に引き出せば、そこに住まう人びとのあらゆる価値が未来につながる地域へ進展します。今草津には人と人が手と手を取り合い、地域のために行動を起こす原動力が必要です。SO-AIプロジェクト、それはすなわち愛郷心を地域発展の原動力としたビジョンであり、草津の発展は大きな円を描きながら力強く地域に広がり、我々の基本理念は揺るぎなく明るい豊かな社会へと突き進むのです。

我々、公益社団法人草津青年会議所は、

- 一、魅力溢れる理想的な草津を目指すために、
「ひととひとが手を取り合い、様々なコミュニティが連携し合う」環境を地域に提供します。
- 一、豊かなところを持つ次世代を担う子どもたちを育成していくために、我々や大人が子どもとともに学べる機会を創造します。
- 一、草津から必要とされ、未来永劫存在する魅力ある団体で有り続けるために、我々は、共に活動してくれる同志を発掘し100人LOMを目指します。

① 個から公への意識変革が魅力溢れる地域を生む

社会の構造の変化に伴い、人と人との心のつながりが失われつつあります。さらに、世代間交流の場や地域コミュニティが正常に機能せず、時代とともに人びとの暮らしに対する不安要素が増しているように感じます。このような時代であるからこそ、今一度、周りや地域を見渡し、地域の中の自分、社会の中の自分、すなわち「公」の中の「個」を考え意識変革をしていき、人と人、人と地域をつなぐことが求められているのではないのでしょうか。

そこで我々は、様々なコミュニティが地域の課題・問題の解決に向け、相互に連携し合える環境をつくるために、多くの市民や行政、団体と協力して、ひととひとが手を取り合い、多世代間で助け合う精神を養う場を作っていきます。そして、コミュニティを活発に機能させるために、我々が地域の活動に溶け込み、市民や地域を巻き込むことで、各々が「公」の意識を持って地域の活動に取り組める場を提供していきます。また、市民一人ひとりが、未来に向け地域を創り上げていく意識を高めるとともに、若者が持つ自由な発想力と活力ある行動力をまちづくりに反映させるために、我々大人が地域の中の自分の役割を考え、若者に活躍の場を提供するとともに地域への感謝を伝えてまいります。

我々の活動を通して、まちづくりの運動が地域に広まることにより、多世代間で手を取りあいながら市民と行政がつながる魅力溢れる理想的な地域へと生まれ変わります。

② 次世代を担う子どもたちへ ～共育によるひとづくりが魅力溢れる地域に～

昨今、こころの豊かさや、他人に対しての感謝、道徳心が薄れてきています。学力を重視する社会構造は、偏った教育論を生み出し、子どもたちを取り巻く歪んだ価値観の影響により、自由な発想を削がれ夢を描けない子どもたちがたくさんいます。また、情報化の進展で創り上げられた無責任な仮想化社会は、損得勘定や大衆世論を優先させ、人や物事に対して深く考える機会を削ぎ、心の豊かささえも蝕んでいます。人びとはますます自己中心的で社会に対して無責任になり、他者に対して無関心になるという、行き過ぎた個人主義が蔓延し道徳心や利他の精神が失われ、倫理の欠如が問題視されています。このような状況であるからこそ、人の心の在り方を深く考え、自主性を持った「個」の確立が求められているのではないのでしょうか。

そこで、我々は、次世代を担う地域の子どもの自由な発想を伸ばすために、直接的な体験や体感ができる場を提供し、未来に夢を描ける機会を創ります。

そして、子育て世代の意識を変革させるために、子育て、教育における様々な問題を深く考える場を提供し、親としての在り方や、子どもを取り巻く環境を見つめ直す機会を創ります。また、倫理の欠如を補うために、心の在り方や善悪を大人と子どもが共に考え、子ども達の道徳心を養う中で、地域の人びとに気づきが生まれ、改めて他者を思いやる心を見つめ直す機会を創ります。さらに、我々は、市民が草津を愛する心を育むために、世代間交流を通して草津に古くから存在する素晴らしい歴史、伝統、文化を学ぶ機会を創ります。

我々の活動を通して、我々や次世代を担う子どもたちが、現実と向き合える力を養い、仮想化された価値観に偏らない「個」を確立させるとともに、豊かなこころを持つ次世代を担う子どもたちを育成していきます。

③ 魅力溢れるまちづくりのために魅力ある団体を目指して

青年経済人である私たちは、英知と勇気と情熱を持って、わがまち草津を創り上げていかなければなりません。「まち」は「ひと」でしか創ることができません。我々の目指す魅力溢れるまちづくりのためには、我々メンバーがJCの理念や運動をしっかりと理解し、多くの市民に草津JCの運動を発信し、共感して頂くことが必要です。しかし、様々な時代背景の中、会員数は減少し組織の衰退が大きな問題となっております。我々は、未来永劫存在する魅力ある団体を目指すために、メンバー一人ひとりがこの現実を真摯に受け止め、組織の現状を見つめ直し、拡大意識と危機感を持って同志の輪を拡げていかなければなりません。

そこで、我々は、これから草津から必要とされ、未来永劫存在する魅力ある団体で在り続けるために、我々草津青年会議所の理念に賛同し、共に活動をしてくれる同志を発掘し、5年間で100名の組織を目指します。そして、JCの理念や我々の活動を草津に広く発信していくために、我々メンバー一人ひとりの使命として、草津青年会議所の広告塔となり、様々なネットワークを活かし一人でも多くの同志の輪を拡げていきます。また、地域に一人でも多くの強いリーダーを輩出し続けるために、地域に住まう青年経済人の我々が、各種団体、企業、行政と積極的に関わり、一人でも多くの青年と出会い、誇りをもって青年会議所の魅力を伝え続け、多くの青年を入会へと導きます。

我々メンバー一人ひとりが、自身の行動に自覚と誇りを持ち、多くのメンバーの心をついにし、地域を巻き込みながら行動していくことで、市民の意識変革を促します。多くの市民の愛草心が育まれることにより草津は発展し、魅力溢れるまちへと生まれ変わります。



プロジェクト

ひとがまちをつくり、まちがひとを育て



最後に

創立から半世紀、輝かしい50周年を機に、草津青年会議所が地域から最も必要とされる団体であり続けるために、新たなビジョン「SO-AIプロジェクト～ひとがまちをつくり、まちがひとを育てる～」を軸とし、時代に即した運動を展開して参ります。そして、この団体が青年世代のリーダーとして、未来永劫この草津で活動し続けるために、次代に繋がる会員拡大を突き進めて参ります。魅力溢れるまちづくりのために魅力ある団体を目指し、自信と誇りを持ち行動することで、この先の50年も輝かしい草津の未来があると確信してやみません。